別添１（１）

指定管理者による管理運営の実施状況報告

１　施　　設　　名：　福岡県平尾台自然観察センター

２　指 定 管 理 者 名：　ハートランド平尾台株式会社

３　指　定　期　間：　令和４年４月１日～令和９年３月３１日

４　施 設 設 置 目 的：　すぐれた自然の風景地である北九州国定公園平尾台地区における県民と自然のふれあいを促進し、もって自然環境及び自然保護に対する県民の理解を深めることを目的とする。

５　管理運営についての点検結果（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（１）点　検　方　法：　事業報告書、現地確認・ヒアリングにより、指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。

（２）点　検　結　果：　別添のとおり

別添１（２）

①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
①公共性（公益性）の確保	・「自然と人に優しい」をコンセプトに、現実の自然を教材として、人が自然への関わり方を学ぶ場とする。	・平尾台の自然を楽しむとともに、自然保護の大切さを理解してもらうため、自然観察会等を実施している。 自然観察会：野草観察、登山イベント等…17回 ※例年25回前後のイベントを計画しているが、天候不順により令和7年度は17回の開催となった。 ・高齢者や障がいのある人などが利用しやすいように、まごころ駐車場、点字ブロック、廊下には手すりを設置するなど、配慮をしている。
	・平尾台を巡視して施設の点検管理を行うとともに、違反行為は注意するなどして自然の保護を図っている。	・野草の採取や保護区域への車両の乗入れ等の違法行為について、監視活動が十分に行われている。（年間359日、延べ718回） ※乗入違反、植物採取、たき火、不法投棄等に対する是正指導
	・ボランティアの育成と活動の推進を図る。	・センター主催のイベントや自然保護活動に参加するボランティアに向けた研修会を開催し、その育成に取り組んでいる。（研修会 25回） ※年間で28回の開催を計画していたが、天候不順により3回が中止となった。 ・生物多様性を維持するための竹伐り、草刈りを行うとともに、案内板や散策コースの整備、館内ガイド等を行っている。（活動実績 66回）
	・県、北九州市等の行政機関や地域との密接な連携を図る。	・県、北九州市との「定例連絡会」により運営に係る課題を共有する他、自然環境関連団体との連携も図られている。（いのちのたび博物館、秋吉台ｴｺﾐｭｰｼﾞｱﾑ、日本洞窟学会等） ・地元の自治会や市町が参加する地域連絡協議会に参加し、地域行事への協力や平尾台地区の自然環境保全を呼びかけている。
	・公共施設としてのサービスの質を確保するため、定期的な職員研修や柔軟な職員配置を行う。	・外部講師を招いた職員研修やボランティア研修の受講を通じ、自然保護の担い手としての資質向上に努めている。
②施設利用及びサービス向上	・一層の利用促進を図るため、常設展の他に特別展示を開催する他各種広報媒体によるPR対策を充実する。	・5月17日にリニューアルオープンし、初日に地元からの来賓やボランティア等が参加する記念式典を行った。 ・機関誌の発行やウエブサイトの活用、行政広報誌等への情報掲載などPRを行っている。
	・利用者ニーズの把握及び反映によりサービス向上を図る。	・入館者、イベント参加者を対象にアンケートを実施し、課題解決に向けた取組みを実施、検討している。なお、イベント後のアンケートでは、今後も「ぜひ参加してみたい」が74.8%、「イベント内容によっては参加したい」が22.2%となるなど大変好評を得ている。 ・来館者の要望に応えてカレンダーを作成・販売するなど、利便性及びサービスの向上に努めている。
	・センターの中庭等に平尾台の代表的な野草園を整備する。	・平尾台に生育する200種以上の野草を中庭やセンター外周に集め、高齢者や歩行困難な利用者もセンターにおいて野草が鑑賞できるよう配慮している。 ・利用者数　令和6年度：1,210人　→　令和7年度：34,637人（対前年度比2763%増） ※リニューアル工事により令和5年9月～令和7年5月16日まで休館。 ※コロナ禍以前参考　平成30年度：39,980人
	・安全対策や危機管理に関する取組みを実施する。	・停電時には、非常灯が点灯する他、エレベータ用の非常電源が作動するなど、非常時に備えている。 ・電気設備の点検を毎月１回、消防署による立入検査を年１回実施するなど、施設の保守点検を行っている。 ・必要に応じ、大雨、大雪等の気象情報や、積雪による通行障害等の交通情報を警察、消防等に提供する他、災害時対応マニュアルを整備し、訓練を実施している。 ・緊急時や災害時には携帯メールを活用し、迅速な連絡体制をとっている。

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
③経営（収支）改善	・人材やノウハウ等、経営資源の有効活用を図る。 ・空調等の維持管理経費の節減や施設･設備の保守点検業務の見直しにより、経営改善に努める。物品販売による増収に努める。 ・人件費の抑制に努める。	・「平尾台自然の郷」との連携により、人材、ノウハウの共有等有効活用による経営の効率化が図られている。 ・閑散期の空調設備の停止、照明器具の節電により施設の経費削減が図られており、また、有料イベントや物品販売による増収に努めている。 ・イベント実施や自然保護活動においてはボランティアの協力を得ることにより運営費を節減している。 ・委託料実績　令和7年度：28,966千円（前年度：28,278千円）
④職員確保方策及び健全な財政基盤	・平尾台の自然保護について見識を持つ人材を確保する。 ・安定した財政基盤を維持する。	・職員には平尾台への造詣が深い者を配置している。また、知識向上のための研修を実施している。 ・本社運営部長を運営コーディネーターに充て、必要な助言、指導を行わせるなど、人的資源の有効活用を図っている。 ・指定管理者は北九州市と地元企業が出資、設置された第3セクターであり経営基盤は安定している。
⑤施設管理上の個別事項	・個人情報保護の体制を整備する。	・イベント参加者等の個人情報については、本県個人情報保護制度に沿って管理マニュアルを整備し適切に管理している。

②点検結果

□ A＋	（提案内容を上回った）	【総合コメント】 平尾台の植物や生き物の観察会や散策、登山イベントの開催、保護活動のボランティアの育成など、県民と自然とのふれあいを促進し、自然環境及び自然保護に対する理解を深めるという設置目的に沿った事業が実施されている。 また、平尾台フィールドの巡視を行い、散策道など施設の点検管理を行うとともに、野草採取等の違法行為に対し注意・指導を行うなど自然の保護を図っており、適切な管理運営がなされている。 リニューアル工事のためセンターが休館している間（５月16日まで）もボランティアによる活動等は継続して実施した。 利用者数については、リニューアルの効果等によりコロナ禍前の水準（平成30年度：39,980人）に戻りつつある。
○ A	（提案内容をやや上回った）	
□ B	（概ね提案内容どおり）	
□ C	（提案内容をやや下回った）	
□ D	（提案内容を下回った）	